

日時 2013年10月19日(土) 15:00-17:00
場所 メルパルク京都 4階研究室 3.4
主催 京都服育研究会



Main Seminar
メインセミナー

防災へ、服からのアプローチ

～身近な衣服から始める震災への備え～

横浜国立大学 教育人間科学部 教授
薩本 弥生

1. いざという時の衣服の備え

阪神淡路大震災、新潟中越地震、東日本大震災とこの20年間に複数の大地震がおき、それ以外にも頻発する台風、急な大雨や竜巻など誰がいつどこで災害に見舞われるかを予想することは困難です。

防災への関心が高まる中、私たちが常に身につけている衣服からどのようなアプローチができるのか教えていただきました。

【衣服の備え】

3セット分の着替えセットを用意しておきましょう。尿取りパッドを付けておけば洗濯回数が減らせます。体の防護用に帽子や軍手、気候の変化に対応するための衣類の用意(タオルケット、カーディガン、ウィンドブレーカー等)をしましょう。

【衛生面への備えー洗濯】

水は貴重なので、少量の水で洗濯するためにポリ袋を使います。ポリ袋に洗剤(節水タイプ)と水、洗濯物を入れもみ洗います。足で踏んで脱水後、水を変えてすすぎのもみ洗い、脱水をして干します。汚れの少ないものから洗い、使った水はトイレ用として再利用します。

【安全性への備えー着衣着火】

燃えやすい素材を知ることが大切です。特に熔融しながら燃えるもの(ポリエステル、アクリル等)はひどい火傷をおうことがあります。もしも服に燃え移った時は、服を脱ぎ捨てる(燃える材料を取り除く)か、転がりながら大声で助けを呼ぶ、水をかぶるか濡れたタオルや毛布を押し当てる(燃焼温度を下げ、酸素を減らす)ようにします。

2. 暑さ、寒さに備える

寒い冬や暑い夏にどうすればより快適に過ごすことができるのか知っておくことは、夏場や冬場のいざという時にも役立ちます。

例えば、保湿性を高めるには静止空気を含む衣服(羽毛、キルティングなど)が効果的です。避難所などは新聞紙をくしゃくしゃにして服の間にはさんで着るだけでも暖かさがぐっと増します。

またアルミはより効果的に熱が逃げるのを防ぐことができ、皮膚と服の間にアルミを挟み込むだけで約3割もの熱通過率を減少させることができます。

その他零点密度が高く皮膚温の下がりやすい襟首や上半身体感部の衣服調節が保温には重要であるということや、夏場を快適に過ごすための吸水速乾繊維についてなど、様々な科学的データや実験を見せていただきながら分かりやすく繊維と快適性について教えていただきました。



3. 物と知恵で防災に備える

衣服機能面からいざという時の備え考えると、大きく以下の4点になります。

- ・衛生保持への備え/下着や生理用品確保、洗濯の仕方
- ・安全性への備え/防護衣服
- ・暑さ、寒さへの備え/セーター、防災グッズなど
- ・運動機能性への備え/動きやすい上着セットの確保

いつ起こるか分からない災害のための衣服の備えは、決して特別なものばかりではないのです。

Sub Seminar
サブセミナー

子ども達を守る様々な衣服の取組

～制服で、授業で、子ども達を守る様々な取組紹介～ 服育研究会 有吉直美

子ども達の生活の中で一日の約半分は、登下校も含め学校に関わる時間です。学校外と学校内で過ごす時間それぞれに、子ども達を守るためにどのような観点が衣服からあるのか考えました。

1. 学校外で子ども達を守る

・着こなし方で守る

挑発的に見える短かすぎるスカートや大きくあけた胸元などは、性犯罪に巻き込まれる可能性を高めているかもしれません。しかしきれいに着こなすために危険性ばかり強調するのではなく、スカートの視覚効果など楽しく納得できる声掛けが同時に必要ではないでしょうか。

・選び方で守る

その他交通事故防止のために視認性の高い色を工夫する、小さな子にはフードなど遊具にひっかける恐れのある服を避ける等、知っておくと自分だけでなく将来親になる時にも役立ちます。



2. 学校内で子ども達を守る

京都府立洛北高等学校の竝川先生より、家庭科の中で取り組む予防災にもなる多機能ざぶとん「すく〜とん」の紹介をいただきました。家庭科で修得してほしい基礎的な技術をおさえつつ、教材そのものが防災意識を高め、さらにもしもの時には実際に自分を守るために使うことのできる様々な機能や目的を持った教材です。